

【都市と美術研究所】2025 年 7 月 1 日（火）研究会発表要旨

フランス 3 ヶ月の研究滞在報告：  
人と人、人と都市をつなぐアート – パリとナントを例として

“Art Connecting People to People, and People to Cities: Paris and Nantes as Examples”  
— A Research Report on a Three-Month Stay in France

藤井由理

(早稲田大学理工学術院総合研究所 研究院客員教授)

FUJII Yuri

Guest Professor, Waseda Research Institute for Science and Engineering

2025 年 2 月から 4 月にかけての約 3 ヶ月間、フランス・パリに滞在し、ル・コルビュジエに関する研究を進めるとともに、パリ郊外および近隣都市を訪問した。その過程で、アートを媒介とした都市づくりや地域再生の取り組み、さらには治安改善を目的としてアートが活用されている事例をいくつか確認することができた。本発表では、そうした実践例の一端を紹介する。まず、フランス西部、ロワール川流域に位置するナント市を取り上げる。同市はパリから TGV で約 2 時間半の距離にあり、かつてはナント港を中心に、アフリカとの貿易や砂糖産業、17～18 世紀には造船業によって繁栄した。しかし、産業構造の変化に伴い経済は衰退し、都市としての活力も減退した。その後、文化芸術を核とした都市再生が図られ、2003 年と 2004 年に、週刊誌『ル・ポワン』誌上で「最も暮らしやすい都市」に選出されるなど、注目を集めている。次に、治安上の課題を抱えるとされるパリ北部の第 10 区、第 18 区、第 19 区周辺における事例を紹介する。これらの地域では、アート活動拠点を中心とした地域連携の推進、ストリートアートを通じた都市景観の改善、さらには芸術活動を通じた地域コミュニティの再構築といった取り組みが進められており、都市社会におけるアートの新たな役割が示唆されている。

略歴

1970 年東京生まれ。1999 年に早稲田大学大学院修士課程修了。スタジオナスカ、ドイツ・カナダなどでの Studio Daniel Libeskind 勤務を経て 2004 年から藤井建築研究室一級建築士事務所代表。2014 年から早稲田大学創造理工学部建築学科准教授、2021 年から同大学教授。現在は早稲田大学理工学術院総合研究所客員教授。作品に、新宮島邸、服部邸、東京国立近代美術館メイキングプレイスプロジェクトなど。